

政策整理番号	33	施策番号	2	評価シート(B) (施策評価: 施策を構成する事業の評価)		
対象年度	H18	作成部課室	土木部 空港臨空地域課	関係部課室	土木部 道路課, 都市計画課	
政策名	国内外との交流の窓口となる空港や港湾機能の強化			政策番号	4 - 10 - 1	
施策番号	2	施策名	仙台空港へのアクセス等周辺施設の整備と活用			
施策概要	誰もが国内外の各地域に容易に行き来できるように、仙台空港へのアクセス(連絡手段)を整備するとともに、東北の空の玄関口にふさわしい街づくりを行うため、仙台空港周辺地域に仙台空港を核とした交流、物流、情報の拠点の形成を目指します。					
政策評価指標 / 達成度	仙台空港利用者数(国内線、国際線)		A			

達成度: A(目標値を達成している), B(目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す方向に推移している)
 C(目標値を達成しておらず、設定時の値からみて指標が目指す方向と逆方法に推移している) ... (現状値が把握できない等のため判定不能)

施策を構成する事業の分析

活動(事業) / 活動(事業)によりもたらされた結果					活動(事業)によりもたらされた成果							
事業番号	事業名 【担当課】	事業の対象 (誰・何を対象として)	事業の手段 (内容) (何をしたのか)	業績指標名 (単位) (事業の活動量、「事業の手段」に対応)	H16	H17	H18	事業の目的 (意図) (対象をどういう状態にしたのか)	成果指標名 (単位) (事業の成果、「事業の目的」に対応)	H16	H17	H18
					業績指標の値					成果指標の値		
					事業費 (決算(見込)額, 千円) 単位当たり事業費(千円)							
1	仙台空港アクセス鉄道整備推進事業 【空港臨空地域課】	仙台空港利用者	鉄道事業の主体である第3セクターへの補助金・貸付を行うとともに、開業後の利用促進、関係機関との事業調整を実施	単年度進捗率(%)	19	38	21	平成18年度末に計画通りアクセス鉄道を開業させ、空港の利便性が向上。	仙台空港利用者数(千人)	3,223	3,245	3,382
					3,159,238	6,094,108	3,453,743					
					166275.7	160371.3	164464.0					
2	仙台空港臨空都市整備推進事業(土地区画整理事業) 【空港臨空地域課】	区画整理地内立地者	土地区画整理組合への補助金を行うとともに、土地利用の具体化を図るための取組を実施。	単年度進捗率(%)	11	24	28	空港を核とした新しい都市の形成を図り、活力と魅力にあふれたまちづくりを促進する。	臨空土地区画整理事業区域における供用可能エリアの割合(%)	0	1	55
					785,596	1,732,162	2,043,227					
					71417.8	72173.4	72972.4					
3	仙台空港臨空都市整備推進事業(仙台空港臨空都市整備推進支援事業) 【空港臨空地域課】	区画整理地内立地者	名取市の臨空地区内ライフライン整備に対する補助を実施。	単年度進捗率(%)		5	7	空港を核とした新しい都市の形成を図り、活力と魅力にあふれたまちづくりを促進する。	臨空土地区画整理事業区域における供用可能エリアの割合(%)	0	1	55
						64,576	90,807					
						12915.2	12972.4					
4	仙台空港臨空都市整備推進事業(土地区画整理事業資金貸付金) 【空港臨空地域課】	区画整理地内立地者	土地区画整理組合に対し、初動資金の貸付を実施。	単年度進捗率(%)		27	40	空港を核とした新しい都市の形成を図り、活力と魅力にあふれたまちづくりを促進する。	臨空土地区画整理事業区域における供用可能エリアの割合(%)	0	1	55
						200,000	300,000					
						7407.4	7500.0					
5	空港関連道路整備事業(臨空都市関連道路整備事業を含む) 【空港臨空地域課・道路課・都市計画課】	仙台空港利用者	空港関連道路の整備を図るため、用地取得及び工事を実施。	単年度進捗率(%)	8	9	9	仙台空港へ県内外からのアクセス性向上、利用促進を図るため関連する道路の整備を推進する。	仙台空港利用者数(千人)	3,223	3,245	3,382
					4,758,853	5,351,270	5,745,889					
					594856.6	594585.6	638432.1					
				事業費計(千円)	8,703,687	13,442,116	11,633,666					

B - 1, 2, 3 施策を構成する事業群の評価

B - 1 施策実現にむけた県の関与の適切性と事業設定の妥当性	B - 2 事業群の有効性	B - 3 事業群の効率性
適切	概ね有効	概ね効率的
<p>【評価の根拠】 施策を構成する事業の分析「B-1 事業への県の関与の適切性と事業設定の妥当性」を総括して記載</p> <p>・この施策では、国、市、民間団体との役割分担が適切に行われ、県は適切に関与している。各事業とも施策目的に直結しており、事業間で重複や矛盾もないことから「適切」と判断する。 仙台空港アクセス鉄道が開業したことから、今後の事業構成は見直しが必要である。</p>	<p>【評価の根拠】 施策を構成する事業の分析「B-2 事業の有効性」を総括して記載</p> <p>・仙台空港アクセス鉄道の開業、臨空都市の一部まちびらき、関連道路の一部供用開始と各事業は大きな成果を上げることが出来たため、「概ね有効」と判断する。各事業の成果は年度末に集中したため、政策評価指標への反映は今後であると考えられる。</p>	<p>【評価の根拠】 施策を構成する事業の分析「B-3 事業の効率性」を総括して記載</p> <p>・事業進行管理のため、業績指標を事業進捗率に設定しており、事業の単位当たり事業費は横ばいであるが、政策評価指標や成果指標の各種データは、施策の目指す方向と概ね一致しており、「概ね効率的」と判断する。</p>

B 施策評価(総括)

概ね適切
<p>【評価の根拠】 B - 1, 2, 3を総括し施策を総合的に評価</p> <p>・各事業とも施策目的に合致した一定の成果を上げることができ、概ね効率的に執行されている。このことから、施策全体としては「概ね適切」と判断する。</p>
<p>【施策の次年度(平成20年度)の方向性】 この施策における今後の課題等を記載</p> <p>・仙台空港アクセス鉄道が開業したことから、臨空都市や関連道路の整備の推進と共に、空港利用の促進を図っていく。</p>

施策を構成する事業の分析

活動(事業)の分析		
B-1 施策実現にむけた県の関与の適切性と事業設定の妥当性	B-2 事業の有効性	B-3 事業の効率性
<p>【国、市町村、民間団体との役割分担は適切か】 【施策目的及び社会経済情勢を踏まえた事業か】 【事業間で重複や矛盾がないか】</p>	<p>【成果指標の推移から見て、事業の成果があったか】 【施策目的の実現に貢献したか】</p>	<p>【事業は効率的に執行されたか(単位当たり事業費の推移その他から)】</p>
<p>事業計画とおり、平成18年度末にアクセス鉄道の開業を実現させたことから、関係機関相互の関与は適切である。</p>	<p>空港アクセスの改善により、仙台空港利用者の利便性が向上し、仙台空港の拠点性が更に高まったことから施策実現に貢献した。</p>	<p>事業計画とおり、鉄道開業を実現したことから、効率的に執行されたと判断する。</p>
<p>臨空都市整備における区画整理事業は、地域住民による区画整理組合が整備を進めており、県は市と連携しながら組合への補助等の支援を行っている。</p>	<p>仙台空港アクセス鉄道の開業とあわせて、臨空都市の一部まちびらきを行うことが出来たことにより、成果指標の向上に結びついたため、施策の実現に貢献したと判断する。</p>	<p>事業進行管理のため、業績指標を事業進捗率に設定しており、事業の単位当たり事業費は横ばいであるが、事業の成果指標の推移から見て、事業は概ね効率的に執行されたと判断する。</p>
<p>組合事業の負担軽減のため、名取市は公共下水道事業として取り込める部分を可能な限り取り込み自ら整備することになっているが、県で協調した組合支援とし、まちづくりを促進するためには必要性の高い事業である。</p>	<p>仙台空港アクセス鉄道の開業とあわせて、臨空都市の一部まちびらきを行うことが出来たことにより、成果指標の向上に結びついたため、施策の実現に貢献したと判断する。</p>	<p>事業進行管理のため、業績指標を事業進捗率に設定しており、事業の単位当たり事業費は横ばいであるが、事業の成果指標の推移から見て、事業は概ね効率的に執行されたと判断する。</p>
<p>土地区画整理組合では仙台空港アクセス鉄道開業と時期を合わせた一部まちびらきのため、事業の前倒しによる初動資金需要、保留地処分までのつなぎ資金需要への対応が必要であった。まちづくりの円滑な推進のためには必要性の高い事業である。</p>	<p>仙台空港アクセス鉄道の開業とあわせて、臨空都市の一部まちびらきを行うことが出来たことにより、成果指標の向上に結びついたため、施策の実現に貢献したと判断する。</p>	<p>事業進行管理のため、業績指標を事業進捗率に設定しており、事業の単位当たり事業費は横ばいであるが、事業の成果指標の推移から見て、事業は概ね効率的に執行されたと判断する。</p>
<p>関連道路は各道路管理者が整備するものであり、県道については県が整備を行う。土地区画整理区域内については、土地区画整理事業の中で取り組んでいる。</p>	<p>関連道路の一部を供用開始したことから、施策の実現に貢献したと判断する。</p>	<p>事業進行管理のため、業績指標を事業進捗率に設定しており、事業の単位当たり事業費は横ばいである。</p>

施策を構成する事業の方向性

活動(事業)の次年度(平成20年度)の方向性とその説明	
方向性	方向性に関する説明
「宮城の将来ビジョン」における位置づけ	
取組番号	取組名
廃止	平成19年3月18日に仙台空港アクセス鉄道が事業計画とおり開業したことから、整備事業は廃止とする。
拡充	区画整理事業の円滑な運営のため、H22の補助完了・H23の事業完了に向けて街路及びライフラインを整備し、保留地処分を促進させ、土地利用の具現化を図る。
取組12	宮城の飛躍を支える産業基盤の整備
維持	名取市施工のライフライン整備に関しては完了した。
廃止	保留地処分までのつなぎ資金の役目は果たしたため、事業年度は平成19年度までとする。
取組12	宮城の飛躍を支える産業基盤の整備
拡充	アクセス鉄道との相乗効果により仙台空港の一層の拠点性向上に資するため、また臨空都市の成熟に伴う交通需要の増大に対応するため、関連道路整備を推進する。
取組12	宮城の飛躍を支える産業基盤の整備

政策評価指標分析カード(整理番号1)

政策整理番号

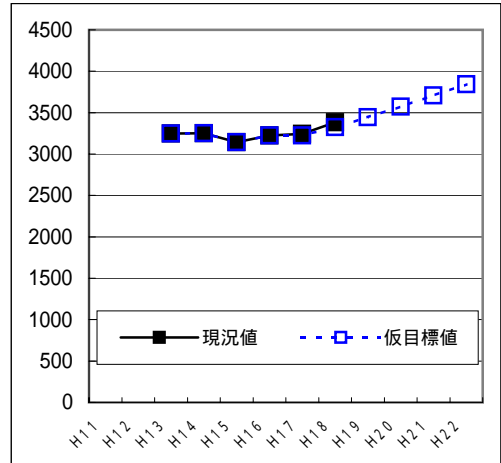
33

施策番号

2

対象年度	H18	作成部課室	土木部 空港臨空地域課	関係部課室	土木部 道路課, 都市計画課
政策名	国内外との交流の窓口となる空港や港湾機能の強化			政策番号	4 - 10 - 1
施策番号	2	施策名	仙台空港へのアクセス等周辺施設の整備と活用		

政策評価指標		単位						
仙台空港利用者数(国内線、国際線)		千人						
目標値	H17	3,223	H22	3,844				
評価年	初期値	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
測定年	H13	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
現況値	3,246		3,246	3,253	3,144	3,223	3,245	3,382
仮目標値			3,246	3,253	3,144	3,223	3,223	3,323
達成度							A	A



達成度:A(目標値を達成している), B(目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す方向に推移している)
 C(目標値を達成しておらず、設定時の値からみて指標が目指す方向と逆方法に推移している), ... (現状値が把握できない等のため判定不能)

政策評価指標の概要

仙台空港を発着する国内線, 国際線旅客便(定期便及びチャーター便)を利用する旅客数

政策評価指標の選定理由

・本県において国内外との交流が活発に行われ, 仙台空港の機能が十分に活用されていることを表す指標として選定した。

達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し

・仙台空港旅客利用者増加の要因は, 景気の持続的な回復より, ビジネスや観光などの航空需要が高まったこと, 国際チャーター便の好調, 全国的な傾向として海外旅行が好調だったこと及び国内外で事件事故が少なかったことが目標達成の背景として考えられる。
 ・今後も引き続き施策を推進し, 目標値に近づけるよう努める。

政策評価指標の妥当性【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】

・本施策の各事業群は, 現在そのストック形成期もしくは完了したばかりであり指標の向上に必ずしも効果的とは言えないが, 施設完成供用後には長期にわたりその効果が発揮されると考えられる。
 ・仙台空港利用者数は, 本県において国内外との交流が活発に行われ, 仙台空港の機能が十分に活用されていることを表す指標として選定したものであり, 施策の最終目標として有効であり妥当と考える。なお, 事業進捗率を補完指標として, 適切な進行管理を図っていく。

